

「よい自己、よい仕事、よい貢献」 日東精工グループの企業価値向上に向けて 社員一人ひとりが大切に守り、実践していく

当社にはいわゆる社是として「我らの信条」があり、
またその一つひとつの言葉を解説する「我らの道」があります。
これは皆が力を合わせて進んでいくための、道しるべです。
荒賀誠代表取締役社長と4人の従業員が
グループミーティングし、日東精工の未来、そして
経営理念「我らの信条(我らの道)」について語り合いました。

「業界で有名」から 「誰もが知っている日東精工」へ

～今日は4人の従業員の方に集まってもらいました。
まず、簡単な自己紹介と日東精工へ入社した
経緯などを教えてください。

福島涼太 (以下 福島) : 高校を卒業して2017年4月に入社しました。じつは「日東精工」という会社については名前も知らなかったのですが、お世話になっていた野球部の監督に「いい会社だよ」と勧められたのが入社のきっかけです。上司、先輩など職場の皆さんには大事に育ててもらっているなと実感しています。いま、制御システム事業本部で流量計の製造・検査を担当しています。食品メカのお客さまなどに足を運んで実際に流量計が設置されているのを目にすると、自分が関わった製品が確かに社会に役立っているのだなと、うれしくなりますね。

奥田結衣 (以下 奥田) : 2014年に大阪支店に派遣社員として入ったのが最初です。翌年、正社員に登用され、2021年にファスナー事業部の本社(八田工場)へと異動になりました。大阪から綾部へ



の転勤を打診されたときは「え？」と驚きが先に立ちましたが、もともと新しいことにチャレンジするのが好きなので、迷うということはありませんでした(プライベートでは綾部に来てから、まだ世の中的には珍しい「ハンモック・ヨガ」を習いはじめ、楽しんでいます!)。仕事の新しいミッションのひとつがファスナー事業本部全体のDX化を進めていくことで、そのためには、購買、技術、販売、品質管理、出荷などモノづくりのすべてを把握し、また各部門の日々の業務やその進捗状況なども考慮しなければなりません。とても大変ですが、やりがいを感じています。

金日東 (以下 金) : 15年前に中国から来日し、他メカ勤務を経て 2019年にキャリア採用で入社しました。金日東という名前から「当社に入ってくれて入ったね」などとよく言われます(笑)。産機事業本部で設計を担当していて、日東精工の技術力は素晴らしいものだと日々感じています。設計の仕事はヒューマンエラーがつきものですが、失敗に対して適切な指示・アドバイスが得られますし、少しハードルが高い仕事に果敢にチャレン

ジさせてくれる企業風土があると思います。

堀 康幹（以下 堀）：2018年に結婚。妻が働いている綾部のまちに暮らすことを決め転職することにし、当社グループ企業の「日東公進」に入社。その後、日東精工の経営企画課に異動し、経営資料の作成をしたり、予算管理を手伝ったり、広報IR業務に携わっています。

代表取締役社長 荒賀 誠（以下 荒賀）：4人の方、年齢も性別も出身もまちまちですね。皆さんのようにいろいろなキャリアをもつ人が当社も増えてきました。多様な人財がいて、それぞれが自分の強みを生かし、力を発揮していくことが日東精工の企業価値を高めていくことになるわけです。会社としては、そのための環境づくり、またそれを時代に合わせ必要に応じて随時アップデートしていくことが大切だと思っています。よい製品づくりのためにはよい人づくりが基本、人が宝であるという考えは、当社の創業以来、ずっと変わらないものです。

～グンゼさんと当社日東精工という東証プライム

企業があることは、地元綾部の雇用創出につながっているわけですが、その一方で、大学進学でいったん綾部を離れるとそのまま戻らないというケースも少なくなく、それが人口減少（社会減）につながっています。以前、山崎善也綾部市長が「高卒者にもっと地元企業に進んでほしいのだけれど、都会の企業への推薦枠などがあり、学校の先生の目が地元ではなく外に向きがちなのが残念」という発言をされていました。綾部には優良企業がたくさんあるにもかかわらずです。皆さんはどのような会社にしていきたいですか？

堀：「ねじをつくっている会社」という理解の方はたくさんおられますが、最先端の精密ねじを製造しているとか、ファスナー・産機・制御システムの3事業連携で締結に携わる問題を解決できるのは世界広しといえども日東精工だけであるとか、そういった当社の強みを正しく理解されている地元の方は残念ながら多くありません。まさに灯台もと暗し。「業界で有名」というだけでなく「誰もが知っている日東精工」にしていきたいですね。



日東精工アリーナでグループミーティング（2023年3月に当社社内報「日東タイムス」用に実施されたものを、今回、編集部責任で再構成）



代表取締役社長 荒賀 誠

人間万事塞翁が馬。 失敗をどう生かしていくか

～社長へ自己紹介をしてもらいましたが、今度は逆に皆さんのほうから荒賀社長へ質問はありますか？

福島：小さいころから野球をやっていたこともあり、見て覚える・まねるということが得意でした。それは自分の強みであると思っています。入社以来、日々、自分自身の成長を感じてきたのですが、このところ、ある程度仕事を覚えたということもあり、成長が止まったというか、横ばいだなと感じています。自分が次のステップへいくためにはどうしたらいいのでしょうか？

荒賀：じつは私自身、30歳ぐらいのとき「会社を辞めようかな」と悩んだことがあります。それでなにかを変えたくて、とりあえず、もう一度学び直しをしようと、3年ぐらい自己啓発で大学へ通うことにしました。結局その学び自体は途中で中

断し、会社も辞めずにいまに至っているわけですが、新しいことに挑戦することで道が開けたというか、モヤモヤを晴らすことにつながりました。仕事ができる、できないというのは、突きつめれば経験の差です。新しいこと、これまでと違ったことを試みようとする、緊張して上手くいかないかもしれない、慣れていないから失敗することもあるかもしれない。でもそれが成長につながっていきます。

私は「頼まれたら断らない」を信条にしてきました。たとえば綾部高校のPTA会長を引き受ければ1000人以上を前に話をしなければならない。やはりはじめはガチガチに緊張する……でもこういった経験が糧になっています。いま目の前にある仕事はもちろん大事だけれど、視野を広げているいろいろなことに目を向けること、それが成長につながっていくでしょう。

金：失敗という言葉ができませんでした。荒賀社長にとってのこれまでの「失敗」はなにかありますか？

荒賀：取り返しのつかない大失敗といえば……、出すべき文書と出してはいけない文書を取り違えるという致命的なもので、ほんとうに一步手前で未然に防ぐことができましたが、これは肝を冷やしました。じつはそんなに昔のことではありません。いくつになっても、経験を重ねていっても落とし穴はあるもので、慣れや思い込みは怖いですね。常に緊張感をもって取り組む、丁寧に組みまないといけないと改めて自分を戒めました。

小さな失敗についてはたくさんあると思うので



ファスナー事業本部管理部管理課 係長 奥田 結衣



制御システム事業本部製造部製造課 福島 涼太

すが、失敗を引きずらずに気持ちを入れかえるようにしているので、失敗に関するエピソードはあまりないですね。私は「人間万事塞翁が馬」という言葉が好きです。人生、幸せも不幸せも予測ができないという意味ですが、たとえ失敗してもシェンと落ちこむのではなく、よいことに結びつこうように考えて行動を起こしていくとよい、というように解釈しています。うまくいかないことがあっても、努力していれば必ずよい方向に転じてくる、逆に調子がよいときは足元をすくわれないように謙虚に、感謝を忘れないことです。

奥田：仕事とは直接関係ないことかもしれませんが、荒賀社長はスーツだけではなく制服を着ておられるときも、いつも袖のところがビシッとまっすぐしておられますが、アイロンをかけておられるのでしょうか？ とても清潔で、おしゃれですね。

荒賀：自分ではないですが、妻がやってくれています。ファッションで自分らしさを表現するという考えもありますが、ある人がおしゃれは自分自身のためにするものではなく、まわりを気持ちよくするエチケットという趣旨のことをおっしゃっていました。少なくとも仕事の場ではその通りだと思います。ブランドなどくにこだわりはないのですが、身ぎれいでありたいとは思っています。経営の透明化が大事だなどといいますが、経営も、仕事も、プライベートも、いつ見られても困らないように、見られて恥ずかしくないようにしたいとは思っています。

よい自己、よい仕事、よい貢献

～日東精工にはいわゆる社是である「我らの信条」があり、その意味を解説する「我らの道」があります。これについて皆さん、どう思われますか？

福島：毎日、唱和するので、そういうものかとは思いますが、正直、これまで強く意識したことはありませんでした。

～福島さんのように新卒入社の方はそれが当たり前だという感覚なのでしょうが、キャリア入社の方々はどう感じられていますか？

奥田：以前勤めた会社にも社是はありましたが、こんな「立派」なものではありませんでした。「我らの信条」が形骸化せず、それを具現化しているというか、しっかり体に染み込ませている人が多いのにも驚きましたね。

金：「自分たちの仕事で、社会貢献をしていく」ということに関して、まさに自分が思っている「やりがい」に通じます。技術者としてよい製品をつくって社会に貢献していきたいですし、またゲームやスポーツ、お祭りなど地域のイベントなどに参加すると、子供たちが外国人の私に興味をもってくれます。「モノづくり」だけでなくコミュニケーションを大事にし、社内外での「人づくり」も大事にしていきたいです。

福島：日東精工は野球や卓球、陸上、パラグライダーなどいろいろな部活動が盛んです。私も野球部に所属しています。以前、部員が中学校や小学



産機事業本部技術部設計課 金日東



経営戦略本部経営企画室経営企画課 堀康幹

校でコーチをしていたという話を聞いたので、そういう形で貢献していければと思います。

堀：「我らの信条」には「よい」という言葉がたくさん登場します。この「よい」という言葉の曖昧さに価値があると思っています。明確な状態の規定がないことで、自己にも、仕事にも貢献にも上限やゴールがなく、どこまでも高めていけるものだとして解釈しています。

私は綾部商工会議所の青年部で、綾部市の商業を若者の力で活性化する取り組みを行っているのですが、秘かに考えているのは「ねじのまち、綾部」の実現です。福井県の鯖江市が「めがねのまち」として有名なように、ねじを綾部のまちおこしにつなげていければと思っています。

奥田：堀さんの「ねじのまち 綾部」の話を聞いて思い出したのですが、じつは私は学生時代に学芸員の資格を取りました。大学時代に教授から「企業で勤務するなら、博物館を自分で立ち上げて学芸員としてサポートできる」と言われました。まちおこしとして、ねじの博物館などができるといいですね。

荒賀：当社は今年創業85年ですが、90年、100年の節目の年の記念に実現させたいですね。皆さんからいろいろなアイデアが生まれてきました。大きな貢献は小さな貢献からはじまります。企業として、個人の活動としてなにができるのかを考え、行動していきましょう。

先ほど「よい」という言葉について、堀さんがどこまでも高めていけるものと解釈してくれました。「今日のベストは明日のベター」という言葉もあるように、現状の「よい」に満足するだけではだめだということでしょう。

そして、また「我らの道」では「よい」を調和を得ていることと紹介しています。引用すると
〈人間には相手を思いやるやさしさが必要だが、やさしさだけでは人生の荒波を乗り越えていくことはできない。当然、頼もしさも求められる。この双方が片寄らずに調和がとれていることが肝要である。(中略) 換言するなら「同時追求しにくいものの同時追求」である。たとえば、丁寧と迅

速、品質向上とコストダウン、既存顧客の深耕と新規顧客の開拓、ねじでいえばしっかり締まる一方で、ゆるめることもできる。外しやすいといったように、なかなか一見相容れにくいものをバランスよく進めていくこと、それが調和である〉となります。

個々に能力があっても、運動会の綱引きと同じで、皆が一致して同じタイミング、同じ方向に引っ張らなければ、その力は分散してしまいうまくいきません。「我らの信条」、そしてその解説書「我らの道」は、皆のベクトルの向きを同じにするもの。正しく進むための道しるべです。「よい自己、よい仕事、よい貢献」に皆で精進していきましょう。

我らの信条

我らはよい自己をつくる
健康を増進し
品性を養い
知識を求め
技術をみがいて
健全な人格をつくる

我らはよい仕事をする
誠実を旨とし
改善を怠らず
親和協力して
よい製品をつくり
明るい職場をつくる

我らはよい貢献をする
我らが日々の勤めに
いそしむことの出来るのも
社会の恩恵による
感謝の心を仕事に活かして
社会に貢献する

我らの道

—————

NITTOSEKO

「我らの信条」は変えることのない普遍なものです。一つひとつの言葉にはいろいろな意味が含まれています。今般、解説書の「我らの道」を17年ぶりに改訂しました。

本社のある綾部市で IR(個人投資家)説明会を開催しました

当社本社がある京都府綾部市や近隣の福知山、舞鶴などにお住まいの方を対象にしたIR(個人投資家)説明会を開催しました。日東精工は創業から地域貢献を創業理念の一つとしており、地域の方々から当社へのご支援を多数いただいています。

ただ、その一方で、身近な地域の会社であるがゆえの思い込みも少なくなく、20年前、30年前の知識や理解がそのまま更新されていないケースもあります。そこで地元、本社のある綾部でも、おもに個人投資家を対象に不定期ですが企業説明会を行っています。当社代表取締役社長荒賀誠がパワーポイントを使いながら、日東精工の事業内容、そして強みや可能性を解説しました。

4月29日に綾部駅北口の北部産業創造センターで開催。会場は満席となりました



日本ねじ工業協会出展ブースに 企画協力

7月12日から15日まで東京ビッグサイトで開かれる国際展示会「MF-TOKYO2023 プレス・板金・フォーミング展」に日本ねじ工業協会が出展されるのに当たり、



画像は過去開催のもの

当社も展示協力を予定しています(6月30日現在)。

今回の同協会のテーマは「SDGs」で『「この世はねじでできている」×「ねじ発、サステナビリティ貢献」』と謳った企画展示に、省エネや省資源化など環境面でも強みを発揮する当社の異種金属結合「AKROSE」や「CPクリップ」などを提供したほか、来場した方が実際に極小ねじに触れてねじ締めを体験いただくコーナーなどを設け、日本ねじ工業協会がねじの大切さや奥深さを訴求されるお手伝いをさせていただきます。

厚生労働省のWEBサイトに 当社の取組事例が掲載されました

厚生労働省のWEBサイトの一つに「治療と仕事の両立支援ナビ」があります。かつては病気になると治療に専念のため退職というケースが少なくありませんでした。しかし医療の発展で最近では比較的短期間の入院や外来での治療が可能な疾患が多くなり、

働きながら治療を行う方も増え、治療と仕事の両立支援が必要な時代となりました。治療

をしながら働きたいという思いがあり、主治医が可能だと判断した人が安心して働ける職場環境の整備が求められています。「治療と仕事の両立支援ナビ」サイトでは、企業の取組み事例を紹介し、職場環境の整備などについて周知を図っています。

当社の取組みについてもご注目をいただき、〈休暇制度・勤務制度〉〈支援体制〉〈個人情報の保護〉あるいは〈社外資源の活用状況(産業保健総合支援センターやキャリアコンサルタントの活用)〉などについて、具体事例を交えながら丁寧に紹介いただいています。



「治療と仕事両立支援ナビ」で紹介されている当社の記事トップ。

より詳しい
情報はここから▼



当社では健康経営推進委員会を設置しています。写真は委員の集合写真

子育てサポート優良企業の証 「プラチナくるみん」を京都府北部で初認定

子育て支援をする企業を対象にした厚生労働省の認定制度が「くるみん」。当社では2020年に初認定を受けてからも継続して、すべての従業員がよりいきいきと働き続ける環境を整備してきました。①「男性育児休業の取得率向上」②「女性従業員のキャリア継続支援（出産後の継続就業のための支援）」③「多様な働き方に関わる制度導入」の目標達成を目指し取り組んだ結果、「くるみん」のさらにその上をいく高水準の「プラチナくるみん」認定を受けることができました。5月30日に認定通知交付式が京都府労働局で行なわれました。



認定通知書を受け取る当社代表取締役社長 荒賀誠(左)。2023年4月末日時点、くるみん認定企業数は4,127社、プラチナくるみん認定企業は549社。京都府北部の企業としては当社がはじめての認定

日本のねじの歴史に関わる お客さまが当社を訪問

プラスねじを日本にはじめて持ち込んだのが「林音吉商店」ですが、林音吉のお孫さんである林義夫さん(80)、また大沢商会とフィリップス社を当社に結び付けたのが林元三さんですが、そのご長男の林成さん(88)のおふたりが6月13日に当社を訪問。代表取締役社長荒賀誠と面談いただき、その後、ファスナー工場を見学されました。現在は関西大学校友会機友会会長などを務められる林義夫さんは、荒賀社長の出身大学の先輩であり、当社日東精工のねじの種類の高さや顧客対応力を高くご評価くださいました。また林成さんは半世紀以上も前にお父さまと一緒に当社を訪ねられたことを思い出しく感じただけでした。当社は創業85年になります、これは多くの先人の方の努力やご苦労の上に成



り立っていることをあらためて強く認識したひとときでした。

当社の多種多様なねじを実際に手に取られる林成さん(左)と林義夫さん

当社社員のメディカル関連の講演が 学会誌に掲載されました

昨年11月19日に京都府歯科医師会館(京都市中京区)で開催の、第20回日本再生歯科医学会学術大会(創立20周年記念大会)シンポジウムにおいて、当社メディカル新規事業部の村田が「溶解速度調整可能なマグネシウムインプラントの開発」と題して、これまでの成果を含め講演致しました。

また、この講演内容が3月30日発行の「日本再生歯科医学会誌」に掲載されました。



大切さを再認識してもらうため ねじの写真を大募集

6月1日は「ねじの日」。当社本社がある綾部の「ことばの泉・ねじ文庫」ではこの日を記念した「ねじの絵本 おもちゃ展」が開催され、当社も材木正己会長の書籍やねじ万華鏡などで展示協力をいたしました。

また当社では「今まで気づかなかったねじの存在」「ねじの珍しい使われ方」などの写真を広く募集しました。一般の方に広くねじの大切さを再認識してほしいという思いを込めたキャンペーンで、6月1日の「ねじの日」から募集を開始し、6月30日までの1か月間受け付けました。優秀作品などは7月末からホームページなどで掲載予定です。



賞品のひとつ「ねじとくん」のぬいぐるみ

三つの責任

荒賀 誠

「責 任がある」とか「責任が重い」などといいます。

「責任」とはシンプルに言えば、「やるべきことにきちんと取り組み、最後までやり遂げること」です。ですから、結果が芳しくなかったとか、不祥事の責任をとって辞めるというのは、じつは自分の責任を果たさなかったということになります。責任を負うものとしては、そうならないように全方位に心配りをしていくことが必要だと肝に銘じています。

与えられた仕事をやり遂げるのが「責任」のファーストステップだとすれば、自分の力だけですべてを為

そうとするのではなく一部を人（部下）に任せ、それで余裕のできた時間で新しい仕事を創造する責任もあります。さらに部下、次代を育てる責任もあります。三つの責任、これは松下幸之助さんが語った言葉です（『経営秘伝』江口克彦著）。

どんな立場、地位であろうとも、

1. 仕事をしっかり仕上げたか、
2. 新しい仕事をつくり出したか、
3. 後進を育てる努力を怠っていないか、

この三つの責任を大事にし、実行していくこと、それが真の意味で「責任を果たす」ということなのでしょう。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

「幸せ」を見つけるヒント ————— 7月

あとの祭りを大切にする

毎年7月に「あやべ水無月まつり」が開催され、当社としてこの祭りに協賛しているほか、多くの従業員がさまざまな形で参加しています。「献燈神事」「万灯ろう流し」「良さ来い」「花火」など、祈りあり、華やぎあり、高揚感あり、一体感ありのまさに夏の風物詩です



が、じつは祭りはそれだけでは終わらないのです。

翌日を「クリーン水無月」と題し、会場周辺の清掃を多くの市民ボランティアで行なっています。実行委員会（綾部商工会議所）が呼びかける時間よりも、早い時間から人が集まって自主的に掃除がはじまる……これは綾部の誇りともいえるでしょう。

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のひとつに「物は取るときよりも置くときに丁寧さを」があります。終わりを丁寧にすることが、次へとつながっていくということだと思います。

日東精工代表取締役会長 材木正己
綾部商工会議所会頭

※日東精工はサステナブル経営（絆経営）を通して皆さんの幸せを願っています。



発行：日東精工株式会社経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます